

平成 30 年度 すこやかメールマガジン 第 619 号【読書】11 月 8 日配信

先月 20 日に、84 歳の誕生日を迎えた皇后さまは、来年の代替わり後、楽しみにしていることの一つに、読書を上げられました。

「読み出すとつい夢中になるため、これまでできるだけ遠ざけていた探偵小説も、もう安心して手許に置けます。ジーヴス※も、2、3 冊待機しています」

(※ジーヴスとは、英国の作家 P・G・ウッドハウスによる探偵小説に登場する執事)

今月の読書週間に合わせ、花巻市立石鳥谷図書館では、中高生による「ビブリオバトル」が開催されました。「ビブリオバトル」とは、誰でも（小学生～大人まで）開催できる本の紹介コミュニケーションゲームです。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに、日本全国に広がっています。

<ビブリオバトル ルール>

- ① 発表参加者が読んで面白いと思った本を選んで集まる。
- ② 順番に一人 5 分間で本を紹介する。
- ③ それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを 2～3 分行う。
- ④ 全ての発表者が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

参加した女子中学生に読書環境について聞いてみたところ、小さな頃から母親が絵本の読み聞かせをしてくれており、自然と本に親しむことができていたとのことでした。そこで私は、今回チャンプ本に選ばれた女子高生も、「やはり小さい頃から本に親しんできたのだろうか」と思っていました。ところが、本人に聞いてみたところ、「私は中学生まで、特に読書が好きというわけではなかったし、どちらかと言えば、本を読むのは好きじゃなかった」とのこと。「えっ？」と、一瞬耳を疑いましたが、私は、かえってその事実に興味をそそられました。彼女が、読書好きになったきっかけは、「高校生になって感動した一冊と出会えたから」とのことでした。

「なるほど！本に興味を持つきっかけは、今まで本を何冊読んだかではなく、『いかに感動した一冊と出会えたか』が大切なのだな」と、痛感しました。「活字の中には、たくさんの宝物が隠されているのだから、それを見つけ出すのは、あなたです！」とも言えるかも知れませんね。

ビブリオバトルの途中、オススメの本の話をしている時の彼女たちの目は、とてもキラ

キラ輝いていました。ビブリオバトルって、いろんな本に巡り合えて、どんどん世界が広がるものだと実感しました。

さて、20年前、皇后さまは、国際児童図書評議会ニューデリー大会の講演で、読書について、以下のように話しています。

「それ（読書）は、ある時には私に根っこを与え、ある時には翼をくれました」

このお言葉から分かるように、皇后さまは、これから時間ができるから読書しようと思っているのではないことがわかります。きっと、普段から読書に親しんで来られたのでしょう。その始まりには、やはり感動の一冊があったからではないでしょうか。本というものは、自ら手を伸ばして読むものなのだと気づかされます。

どんな形で感動する一冊と出会うかは、人それぞれでしょう。みなさんのお子さん、そして、みなさんも、どうか素敵な一冊と出会えますように……。【A】

〇メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。（アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^)）

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

〇メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」
> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口 2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索